

第 5 群

第 5 群

I 必修 (共通問題)

昭和30年度 問題〔1〕

正答率 11.0%

つぎの文の()の中に、下の□のうちから適当なものを一つずつ選んで、その番号を書きなさい。

栄養素のうちで、エネルギーのもとになるものはa()・b()・c()である。これらのうちで、日本人が多くとりすぎている栄養素はd()で、とりかたのたりないものは、e()である。われわれが日常多く食べている食品であるf()の量を少なくし、たりない栄養素を補うために、g()を多く用いた食物をとるように工夫して、栄養改善につとめなければならぬ。

- | | | | | |
|---------|----------------------|---------|-------|-------|
| 1. ビタミン | 2. ^{たん} 蛋白質 | 3. 無機質 | 4. 糖 | 分 |
| 5. 炭水化物 | 6. 脂肪 | 7. 大麦 | 8. パン | |
| 9. 魚 | 10. 種油 | 11. バター | 12. 卵 | 13. 米 |

A 現在の食生活(栄養上)の実情を知り、その改善の方向を理解しているかどうかをみようとしている。

B

1. 栄養の役割と、その栄養素を含む食品がはっきりしていないのであるまいか。特にこの問題では、エネルギーの元になる、すなわち熱量素について求めているのであるが、その意味がはっきりしていないようである。
2. 栄養素と食品の区別がむつかしい。たとえば、炭水化物の中に糖分があり、脂肪の中にバター、種油があるものを、食品として脂肪に入れている。豚の脂肪はラード、牛の脂肪はヘット、牛乳の脂肪はバター、菜種の油は種油と、純粋な油脂にはおのおの名称がある。これらの点は、なかなか理解され難いものと思われる。

C

1. その時代における食生活の実情をは握させる。(特に最近における)
2. 日常の食事の内容に関心を持たせる。
 - (1) 栄養に関する統計表、図表を利用する。
 - (2) 実生活を^{きょう}凝視し、実態調査の反省をさせる。
 - (3) 食品分析表を活用する。
 - (4) 実物によって指導する。

この問題では日本人の食習慣として、米が過食され、反対に脂肪が不足していることをは握させたいのである。そこでこうした内容を指導するには、ただ現在の基準量を指導するだけでなく、実生活に関心を持たせるためにぜひとも、各自の家庭の食事調査をさせる。分量については御飯が何杯、お汁は実に何がはいって何杯、中位の焼魚一きり、というような調べかたでよいから、教師はよく補導して実態が正直に現われるよう努める。場合によってはグループでまとめさせてもよい。それらを、現在の基準量と比較検討させるなら、過不足の状況がおのずから理解されるのであるまいか。

さらに、最近における厚生省統計局による栄養実態調査の統計をみせ、全国的傾向と自分たちとを比較して、改善点を見出させるようにしたい。(資料は保健所、県統計課などに整っている)

つぎに、不足している栄養素の含有食品を分析表によって調べさせ、どのような食品を補っていけばよいかを指導する。たとえば、脂肪性食品を献立に入れるためのくふうとして天ぷら、炒め物^{いた}のみでなく、酢のものはサラダ風に、お菓子にもカリン糖、シュークリーム等に脂肪の含まれることを指導し、興味深く進めてゆきたいものである。

さらに指導の結果は、各自の家庭においてどのように活用されたかを、数か月後に実態調査をし、その改善やくふう努力について批判させてみるのが大切である。

昭和31年度 問題〔5〕

正答率 72.1%

都市でも農村でも、主婦は、一般に家事に費す時間が多すぎ、教養や娯楽の時間

がすくない。つぎは、主婦の家事に費す時間をすくなくするための意見である。現在の一般家庭の事情から考えて、適当と思うものには○を、そうでないものには×を()の中書きなさい。

- () 1. 家族が、主婦に協力して家事を分担するようにする。
- () 2. 家事をはじめめる前に、手順や方法について新しく考えるよりも、すべて従来のしきりによってやる方がよい。
- () 3. 何をあいても、まず家の設備や道具はすべて最新式のものにする。
- () 4. 台所設備の配置をくふうして、道具が整理しやすく、手順よく使えるようにする。
- () 5. 一日の教養娯楽の時間をきめてあいて、その時になったらどんな家事でもやめるようにする。

A 家庭経営には家事労働の合理化が大切であるが、その中には家事労働を主婦だけの仕事とせず、家族の協力によらねばならぬ面も多い。これらを理解しているかどうかをみようとしたものと思われる。

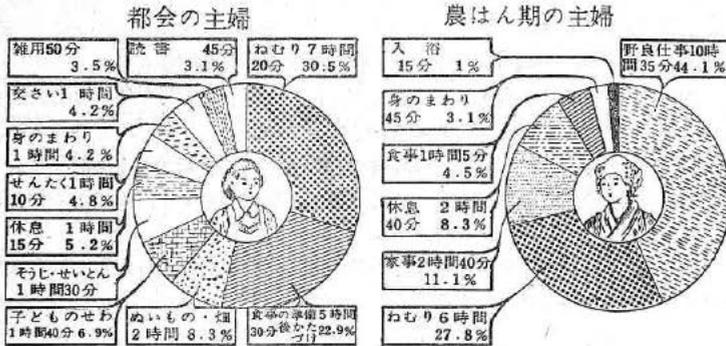
B 常識的な要素が多分に含まれているので正答率は割合によい。

C 日常生活に実践する意欲を起させるよう配慮する。

- 1. 各々の生活場面を発表させる。
- 2. 母親の家事労働に費す時間を発表させる。
- 3. 生活時間表を作成させる。

一例として各家庭の家事を担当している人(主婦の場合が最も多い)のある一日を選んで、24時間の表を作り、自分の一日の表と比較して主婦の忙しさを認識させる。同時にわたし達の生活時間は8時間働き、8時間眠り、8時間休養するという理想を基準として検討し、現在の反省と将来に対する心構えを認識させる。

参 考 資 料



主婦の一日の生活時間の例

(注) 中学校職業・家庭科(女子向)……実教の教科書より引用

昭和32年度 問題〔5〕

正答率 イ. 54.6% ロ. 48.0%

つぎのA表をB表と比べてみて、A表でもっとも不足していると思われる栄養素を二つ選んで、その符号を答の()の中に書きなさい。

またこれを補うためにどんな食品をとったらよいか。それぞれ一つずつ答の _____ の上に書きなさい。

A表 昭和30年度 日本人一人一日当^{せつ}全国平均栄養摂取量 B表 日本人一人一日当 栄養基準量

a	たん 蛋 白 質	69.7 g
b	カルシウム	0.337 g
c	鉄	14mg
d	ビタミンA	1536 I.U.
e	ビタミンB ₁	1.16mg

蛋 白 質	73g
カルシウム	1g
鉄	10mg
ビタミンA	3700I.U.
ビタミンB ₁	1.2mg

答 イ. () _____

ロ. () _____

A 栄養素とその含有食品を理解しているかどうかをみようとしている。

B

1. 保全素の栄養的特質が明確に理解されていないのであるまいか。
2. 食品名の記載が全くないので、想起されにくい点がある。

C 30年度必修問題〔1〕と同じである。ただ本年度では保全素の改善に重点をおいているので、この種の指導にあたってはぜひ分析表を用意したいものである。分析表の見方を指導すると同時に、実際の食品を量的にも結びつけて指導したい。たとえば、カルシウムの多い食品を知らせるために、牛乳に注目させるよう留意する。もちろん100g中の含有量の最高は牛乳ではない。海藻類・黒胡麻等は1000mg以上もある。牛乳では100mgしかない。しかし、わかめ汁の一回の分量は2gでしかない。黒胡麻で一回の胡麻あいの使用量が5gであるならば、両者の一回のCa量は20mg～25mgのものになる。牛乳一回では1本180gとするならば180mgを得ることになる。

また味噌汁と牛乳とをよく比較する人があるが、味噌のCaは100g中100mgで牛乳と同様であるが、1椀^{わん}の味噌汁では10～15gの味噌であるから、Caは10～15mg、2杯飲んでもその倍でしかない。Caについては、比較にならない程牛乳で多くとることができる。なお、牛乳のカルシウムはカゼインと共存し、非常に消化吸収のよいものである。これらの点を考慮して指導したいものである。

備考

34年2月に、栄養所要量が改訂になっている。くわしくは、「1959年改定 日本人の栄養所要量について」——科学技術庁資源調査会により出版された本を参考にしていただきたい。（第一出版社発行）

この改正の行われた理由はつぎの通りである。

- (1) 日本人の戦後の体位向上のめざましさに対応したこと。
- (2) 最近における栄養学の進歩から、新たに所要量を算定するための条件が整ったこと。
- (3) 世界各国の研究進歩から、各国民のカロリー、および^{たん}蛋白質所要量に関して有益な報告の提供があったこと。（国際連合食糧農業機関（FAO）が中心）

a カルシウムの改訂

成人1人1gが0.6gに。乳幼児0～5才まで0.4g、6～8才0.5gとずいぶん少なくなった。それでも問題の摂取量では、所要量に近づくために努力し

なければならぬ点であろう。

b V. Aの改訂

日本人の給源は、最も多いのはB—カロチンである。これまでは生理効果がAのまゝであるとされたが、最近ではずっと悪くまと考えられるようになった。必要量も戦後英国で行われた実験が最も信頼出来るものとして採用され、Aそのものからでは、2000 I.U. B—カロチンでは6000I.U.と2本立ての表示に改められた。新しい分析表には注があるはずであるが、一応にんじん100g 13500 I.U.とあるものは、45gとらないと6000にならない。今までの3700 I.U.では約30gでよかったのである。

昭和33年度 問題〔2〕

正答率 70.5%

下の表は、A・B二種のカレーライスについて、その材料を示したものである。この二つを比べてつぎの問の答を_____の上に、AかBの符号で書きなさい。

A	
豚	肉
油	
たまねぎ	
しょうが	
じゃがいも	
にんじん	
鶏 <small>そく</small> 即席カレー (カレールー)	
塩	
七分 <small>つき</small> 搗米	

B	
塩	た ら
油	
たまねぎ	
しょうが	
じゃがいも	
にんじん	
小麦粉・油 カレー粉	
塩	
白	米

1. 栄養から考えてすぐれているのはどちらか。

答 _____

2. 経費の少ないのはどちらか。

答 _____

3. 作るのに時間と労力の少なくてすむのはどちらか

答 _____

A 献立作製にあたって栄養上、経済上、能率上からみた食品選択の理解をみようとしている。

B ・同じ食品群の中の比較なら、どちらが良質であるか等の理解は割合によいように思われる。

・カレールーということばの理解に欠けていたのであるまいか。

C ・種々の献立を検討させる。

・同じ献立でも食品の組合せ方がいろいろあることを理解させる。

1. 問1の場合は七分搗米^{つき}と白米の比較であって、七分搗米を奨励することをねらいとしているようである。
2. 蛋白質（豚肉と塩たら）と半加工品（即席カレーと小麦粉、カレー粉、油）としての両者の比較である。なお、買物もできるだけ自分でする機会を作るように指導したい。
3. 生活を簡素化するには、半加工品の活用も大切であることを教えるようにする。豆腐や味噌も家庭で作らなくなった現在ではなおさらである。たとえば、小麦粉を油またはバターでいためてルーを作る時、時間をゆっくりかければ美味しくできる。しかしそのために、時間は少なくとも30分はかかる。小麦粉を水で溶いたのではまずいからである。

昭和34年度 問題〔4〕

正答率 13.0%

つぎの文の（ ）の中から適当なものを選んで、その番号を○でかこみなさい。

よい献立を作るには、栄養所要量と、わが国の食糧事情^{じょうじょう}や食習慣^{じくじはん}とを考えあわせて作られた（1.六つの基礎食品^{きそ}、2.食品群別^{せい}摂取量のめやす、3.栄養基準量）を参考にし、（4.食品、5.栄養素、6.原料）のとりあわせをきめる。

- A 献立作製上の基本的な知識（特に栄養摂取の面）を問うている。
- B 「……と考えあわせて作られた」という文章と、（ ）内のどのことばに続くかという判断がむづかしいように思われる。
- C ・六つの基礎食品や食品群別^{せい}摂取量のめやす、栄養基準量、栄養所要量等について明確にする。

・小学校における段階（六つの基礎食品）
中学校における段階（食品群別^{せい}摂取量のめやす） } を明確にする。

小学校の低学年においては、好き、嫌いをいわずに何でも食べることから始まり、高学年では、六つの食品群別をもとにして献立立案の方法を習得してきている。

中学校ではさらに発展して、何をどれだけ食べればよいかという一歩進め

た、科学的な考え方に立って献立を作製できるように指導しなければならない。したがって食品群別摂取量のめやすが必要になってくるわけで、この際生徒には栄養基準量、栄養所要量等もあわせて指導しておかないと、混乱する恐れがある。各家庭の献立を記録し、今までの指導とあわせて、グループで理想的な献立を作製させる。この献立の中から調理の基本になるものを実習に移すようにし、実際と結びつけて経験させることが必要である。

Ⅱ 必 修 (選択問題)

昭和30年度 問題〔10〕

正答率 27.8%

肉と野菜を入れたカレー汁をつくるには、つぎの三つの調理方法のうち、どれがよいか栄養と味からみて、もっともよいと思うものを一つ選んで、その符号を○でかこみなさい。

A	B	C
(1) 材料を切って、全部を熱湯に入れて煮る。 (2) 小麦粉、カレー粉を水でとき、(1)の中に入れて煮る。 (3) 塩と胡椒で味をつける。	(1) 材料を切って、野菜だけ油でいため、肉といっしょにして、熱湯を加えて煮る。 (2) 小麦粉、カレー粉を水でといて、(1)の中に入れて煮る。 (3) 塩と胡椒で味をつける。	(1) 材料を切って、全部を油でいため、水を加えて煮る。 (2) 小麦粉とカレー粉を油でいため、(1)の汁を加えてから、(1)といっしょに煮る。 (3) 塩と胡椒で味をつける。

- A 煮込み料理の正しい調理法の理解ができているかどうかを問うている。
- B 正答率が悪いのは、習慣による調理方法があまりにも使われ過ぎていて、正しい方法が見逃されているためではあるまいか。
- C
- ・調理法によって栄養や味の相違する点を指導する。
 - ・洋風煮込み料理の調理法を理解させる。
- (1) 野菜の煮込み方……油で炒めて、水から煮る。

(2) ルーの作り方……小麦粉を油やバターで炒めて使う。

小麦粉を入れ でんぷんにする。

1. 煮込み料理（特に汁物）を栄養的に、しかもおいしくする方法をはっきりさせることである。

2. (A) (B) (C) を比較して、(C) の場合のように材料を一応油で炒めることは、栄養的にみて含有栄養素の無駄な流出を防ぎ、栄養効果を高める。たとえばにんじんは油でいためることによって、カロチンの吸収がすぐれてくる。

水にとけやすい栄養分は、水から煮るとうま味が煮汁に出る。したがって (C) が適当である。材料を油でいためることは煮物の味をよくする。ただし、野菜を煮る場合は常に水から煮るのではない。この材料が野菜として他の料理に利用される場合には、熱湯でゆでる場合もある。サラダにするじゃがいも、にんじんは熱湯からゆでた方が、うま味は野菜に残るのでおいしくできる。

昭和31年度 問題〔9〕

正答率 イ. 55.2% ロ. 50.9%

つぎのA. B. C. は、冬季における衣服の着用例である。これを見て、イ. ロ. の間に答えなさい。

(下 着)

(上 着)

- A. 木綿のシャツ → 毛糸のシャツ → 毛糸のセーター → 毛糸のカーデガン
B. 木綿のシャツ → 木綿のシャツ → 毛糸のシャツ → 毛糸のセーター
C. 木綿のシャツ → 毛糸のシャツ → 毛糸のセーター → アセテートのスモック
イ. 保温上から考えて、もっともよい着方はどれか。一つ選んで、その符号を答の () の中に書き、またその理由を書きなさい。

答 () 理由

ロ. 木綿のシャツが、毛糸のシャツよりも、下着として適当なわけを二つ書きなさい。

1. _____ 2. _____

- A. ・合理的な衣服の着方について理解しているかどうかを問うている。
B. ・日常の着方の無関心から判断が困難であったように思われる。
・繊維の性質が実際生活と結びついていないのであるまいか。
C. ・実生活に科学的な考え方をする態度を養う。

1. 熱の伝導度について既習知識を整理する。
2. 空気の層と含気量の二方面から徹底させる。
3. 繊維の科学性および織り方の差による性質の理解をさせる。
 - 衣服の着用の目的の一つとして大切な衛生部面を理解させる。

衣服を着ることによって、体温を保持し、外気とちがった気温をつくり、身体を暖かに保っている。衣服原料である繊維類の熱伝導度は下記の通りで、木綿より羊毛が伝導度が小さいので暖かく、その上含気量が多いので保温上有利である。暖かい着方は、身体に近い部分に含気量の多い織り方のものを選び、また薄いものを何枚も着れば空気の層ができて暖かいわけである。さらにこの空気を外に出さないためには、外衣には通気性の少ない目のつんだ織物が必要になる。問イ. では、C. の場合がこの理由から最も適切になるわけで、毛糸編物を中着として空気をたくさん含み、外衣のスモックで空気を出さないようにしていることを述べればよいわけである。

つぎに下着の条件は、肩ざわりのよいこと、洗濯のし易いこと、価格の安いこと等は、一般に考えられ易い。しかし、皮膚から毎日450cc~1050ccにも及ぶ不感蒸泄のあることを忘れてはならない。これを下着が適当に吸収してくれるから、皮膚呼吸が心よくなされているのである。不潔な下着はこの皮膚呼吸をさまたげて、水分がたまり風邪も引き易くなる。ビニールのレーンコートを着た場合、内側に水分のたまりを感じ、水泳帽をかぶった時の不快さ、ゴム床靴の不快さ、これらは日常よく感じていることである。このように不感蒸泄は、汗などと違って液体を感じないで、体表面から水蒸気のように出てきているのである。下着を毎日全部ぬいでねまきに着かえる習慣等も、こんな時に保健と合せてぜひ指導したい部面である。

※ 参考資料

材	料	熱 伝 導 度
	鉄	0.155
	水	0.00143
木	綿	0.000136
羊	毛	0.000092
空	気	0.0000574

(注) 家庭科辞典より引用

ビニロンと毛の混紡サージのスカートを、洗たくするとき、その洗い方および仕上げには、どの方法がもっとも適当か。イ. ロ. にあげた項目のうちからそれぞれ一つずつ選んで、その番号を○でかこみ、つぎにその理由を書きなさい。

イ. 洗 い 方	ロ. 仕 上 法
1. つかみ洗い 2. もみ洗い 3. はけ洗い 4. ふり洗い	1. 手のし仕上 2. おし仕上 3. 湯のし 仕上 4. アイロン仕上
理 由	理 由

つぎのズボンのアイロン仕上げをするには、それぞれ適当な温度がある。その温度の低いものから順に()の中に番号を書き入れなさい。

- () a. 化せんサージ(ナイロンとレーヨンの混紡)のズボン
 () b. ビニロンのズボン
 () c. 木綿のズボン
 () d. 毛織のズボン

デニム(たて糸もよこ糸もビニロン)でスラックスを作ることにした。地直しをするには、つぎのうちのどれがよいか。もっともよいと思うものを一つ選んで、その番号を○でかこみなさい。

1. 布地全体をまず水に浸し、半がわきのころ ^{ひた}裏側から布をあててアイロンをかける。
2. 布地全体を水に浸し、かわかしてからきり ^ふを吹き、布をあててアイロンをかける。
3. 布地の裏から、一面にきりを吹き、しめりがゆきわたったころ、布をあててアイロンをかける。
4. 布地の裏から、しわをのばす程度に、かるくアイロンをかける。

A 繊維の化学的、物理的性質を理解して、衣類整理の方法が身についているかどうかをみる問題と思われる。

B 繊維の性質と取扱いについての知識がはっきりしていないようである。それは、日常生活にあまり経験が少ないことがらが多いためと思われる。

例、30年度におけるビニロンと毛の混紡サージのスカートは、この年度においては生徒の日常生活に入っていない。
31年度の問題でも同様なものがみられる。

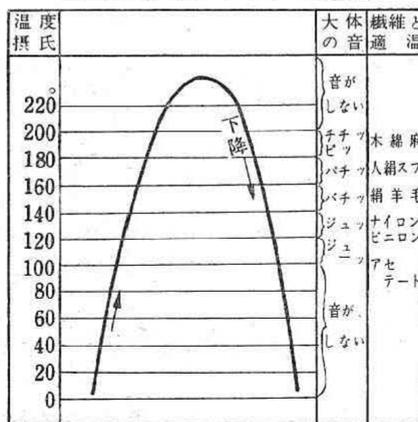
- C
- 繊維の科学性から衣類整理を指導する。
 - 新繊維の認識と実用化をはかる。

市場に出廻っても、生徒の家庭にゆき渡って使用されているわけではないから、学校で標本として買求め、実物を通して指導しなければ困難である。

現在では、繊維の種類に応ずる自動調節アイロンや、蒸気アイロンが出廻っているので、安心して使用できることを知らせ、また実習を通して理論の根本原理を指導しておくことがよい。

※参考資料

繊維によるアイロンの適温



指をぬらしてアイロンの底をたたくと音がする。低温のうちには音がしないが100°以上になると、ジュツ、パチッ、パチッ、チツ、ピツ、というような次第に高い音になってゆき、200°前後からまた音がしなくなる。これは大体の温度と音を合せた図である。アイロンをかけながら音によって温度を知って調節してゆけば失敗することはない。

(注) 四季の被服整理 田中たち子著 柴田書店発行より引用

- (1) 30年度の問題については、ビニロンは摩擦に強いし、スカートという型を保持するためにもはけ洗いは理想的である。
- (2) 31年度の問題については、ビニロンは熱に弱いので、アイロンかけの適温に特別の注意を払う必要がある。しわをのぼす程度に軽くかける。

ブロードのブラウスの袖付^{そでつけ}について、つぎの文の { } の中から適当なものを、それぞれ一つずつ選んで、その符号を ○ でかこみなさい。

- 袖は身頃より { a. 1 cm }
 { b. 2.5 cm } くらいゆるくし、そのゆるみは
 { c. 4 cm }
 { d. 肩から前にいれないで後の方へ }
 { e. 目立たないように袖の下へ } 入れる。
 { f. 肩を中心にして前後5 cm くらいずつの間に }

- A ブラウスの袖のつけ方の要領を会得しているかどうかをみようとしている。
- B 経験が少ないので、実習したことをはっきり身につけていないのではあるまいか。
- C ・実習を通して指導する。
 ・体型を通して指導する。(ゆるめる必要性、場所等について)
1. 県中学校長会編「中学校職業・家庭科指導の手びき」の第二集、第5群被服製作の項参照のこと。
 2. ゆるみが何となしに必要であるということではなく、身体の活動上腕の働きに基いて必要であることを感じさせることが大切である。
 3. 曲線に曲線をぬいつける方法について、よくその要領を指導する。

完全に離乳^{りによ}する時期は、生後いつころを目標において努力すればよいか。下の の中から、もっともよいと思うものを一つ選んで ○ でかこみなさい。

6か月 1年 1年6か月 2年

- A 乳幼児の身体的発育段階と栄養について理解しているかどうかを問うている。

B 観察の機会が少ないので、指導を受けてもあまり身につかないようである。

C 乳幼児の身体的発育および栄養との関係を指導する。

1. 栄養の不足

生後10か月ころになると、母乳では栄養が完全でない。

◦蛋白質、脂肪、炭水化物の三要素にはそれほど不足はないが、ビタミンや無機質は不足するものが多い。

◦カルシウム

成長してくる上に6か月ころには歯がはえ始めて、一層カルシウムが不足してくる。これを補うためには牛乳が最も理想的な食品であろう。

◦鉄 分

母体の肝臓に貯えられた鉄分（胎児の時の母体から得て、肝臓に貯蔵されて生まれる）が消費される（6か月ころ）ので、食品から補う必要がある。これを補うためには卵黄がよい。

◦ビタミンC

母乳には多いが、牛乳に代ってくると全く不足する。ぜひ果汁を加える必要がある。

2. 母体保護のため

母乳には三要素がそろっていても、長く続けるなら母体の健康上よろしくない。（「一子一歯」のことわざがあるように）

3. 歯がはえ始めるのは、他の食品をとってもよいという自然現象であることを指導する。

昭和31年度 問題〔13〕イ

正答率 70.3%

つぎの遊び用具のうち、3才の男の子が戸外で遊ぶのにふさわしいものはどれか。もっともよいと思うものを一つ選んで、その番号を○でかこみなさい。

1. スケート 2. 積木 3. ビンボンのたま 4. 三輪車 5. ラッパ

子どもにあたるおもちゃは、心身の発達をたすけるものでなければならない。
 下のおのおの年齢に、もっとも適当なおもちゃはどれか。また、なぜそのおも
 ちゃがよいか。おもちゃの果す役割を考へて、関係のある項目の番号と符号を、それ
 ぞれ()の中^{わり}に書きいれなさい。

3～4か月 () ()	1. がらがら・風りん・くす玉	a. もほうしたり、くふうして遊ぶもの
1～2歳 ^{さい} () ()	2. おしゃぶり・輪なげ・二輪車	b. 視覚 ^{ちよう} や聴覚をしげきして、たのしませるもの
5 歳 () ()	3. きせ替 ^{かえ} 人形・積木 ^{すな} ・砂遊び道具	c. 自分で動かして遊び、運動をたすけるもの
	4. 木製のトラック・おし車・ごむまり	

- A 乳幼児の身体的・精神的発達を理解し、それにみあうおもちゃおよび遊び方についての知識があるかどうかをみようとしている。
- B 観察の機会が少ないが、常識的な面が多いので割合に解答がよい。
- C
- ・中学生の家庭には、乳幼児のいる家庭が少ないと思われる。したがって観察の機会は少ないので、写真、スライドなどを引用したいものである。
 - ・保育所の見学などは、全体でできない場合は代表者を出し、話し合いの資料を得させる。
 - ・家族の協力を求め発表させる。

1. 身体 の 発 育	1. 体重 イ. 生まれたときには、男児が約3kg、女児が約2.8kgが標準である。 ロ. 3～4か月で約2倍(6kg)、満1年で約3倍(9kg)、満5年 では約5倍(15kg)になる。	6～8か月	9～10か月	10～11か月	12か月	15か月	20か月	2～3年	
	2. 身長……生まれたときには約50cmが標準で、順調に育てば満1年で1.5倍(72～73cm)、満5～6年で約2倍(約1m)になる。								
	3. 胸囲……生まれたときは約33cmである。								
	4. 歯……生後6～8か月ではえはじめ、満2～3年の間に乳歯ははえそろう。								
									
2. 精神 の 発 達	時 期	おもな発育状況					適当なおもちゃ		
	新 生 児	視覚はじゅうぶんでないが、光は感ずる。2日目ごろから乳をすう。1日20～22時間ねむる。							
	1～2か月	光や音にたいして感じ、手足を動かしはじめる。					風車・ガラガラ・オルゴール・くす玉・ぬいぐるみの人形		
	3～4か月	目が見えだし、音のするほうへむく。首がすわり、笑いはじめ、手足をしゃぶり、ものをつかむ。							
	5～6か月	人みしりをするようになり、ねがえりをうち、助けられておきる。よだれを多くだす。							
	7～8か月	片ことをいいはじめ、人まねをする。ひとりすわりができ、歯がはえはじめ。(離乳の準備をはじめる)					だるま・まり・人形・ラッパ・動く木製の自動車や電車・汽車		
	9～11か月	はいはじめて、次第につかまって立つようになる。簡単なことばがわかる。							
	11～12か月	つたって歩き、やがてひとり歩きをする。喜びや怒りの表情がはっきりしてくる。(離乳が完了)					歩行具・動く電車や汽車・まり		
	満 2 年	社会性がめばえて、子どもどうして遊ぶ。階段の上り下りができ、走ったり飛んだりする。					絵本・乗物のおもちゃ		
	満 3 年	感情がはっきりしてくる。運動が活ばつになってくる。					ままごと道具・つみ木・砂あそび		
満 4 年	想像力が強くなり、ことばづかいもしっかりしてくる。								
満 5～6年	手先が器用になり、すべてが知的的になって、いろいろなものをつくりだす遊びをするようになる。乳歯の奥に6歳きゅう歯がはえてくる。					色紙・クレヨン・ボール・ぶらんこ			

(注) 既出版発行 進学参考資料より引用

Ⅲ 選択の問題

昭和31年度 問題〔12〕

正答率 3/4%

中学三年生の春子さんは、下のこんだてで朝食と昼食をとった。六つの基礎食品群からみて不足しているものを、夕食にとりたりと思う。右の □ のうちから適当なものを三つ選んで、その符号を答の欄の () の中に書き、またそれを選んだ理由を書きなさい。

(朝食) ごはん

(昼食)

みそ汁 ^{しろ} { 大根
 ジャがいも
 こんにゃくのにつけ

食パン
(バタージャムつき)
みかん

- a. 油揚・さといも・大根のにしめ
 - b. とうふのすまし汁
 - c. ほうれんそうのごまあえ
 - d. キャベツのバターいため
 - e. さばのムニエル
 - f. 大根おろし
 - g. しらす・わかめの酢のもの

答(夕食)

	理	由
ごはん		
()		
()		
()		

昭和33年度 問題〔4〕口

正答率 65.0%

つぎのパン食のうち、栄養からみて、もっともよいと思うものを一つ選んで、その番号を ○ でかこみなさい。

また、その理由を _____ の上書ききなさい。

- | | | | | |
|----|----|----------|------------------------|-------------------|
| 1. | パン | バター | ジャム | 牛乳 ^{にゅう} |
| 2. | パン | 強化マーガリン | マーマレード | 牛乳 |
| 3. | パン | ピーナツバター | クリーム | 牛乳 |
| 4. | パン | いわしのかんづめ | にんじんとほうれんそうのソーテー(油いため) | みかんジュース |

理由 _____

A 六つの基礎食品についての知識を活用し、食品の含有栄養素を理解して献立をたてる能力があるかをみようとしている。

33年度のものは、特にパン食の献立について正しい知識をもっているかどうかをみている。

- B
- ・31年度については、栄養的な組合せより、調理法によっての組合せに困難点があったために、判断に迷ったのであるまいか。(備考参照)
 - ・33年度のパン食については、パン食のよい食習慣が家庭に行き渡っていないことをあげることができよう。
 - ・理由を、短い文章で明確に表現することが難かしかったと思われる。

- C
- ・献立の要点を指導する。
 - ・食品群については、単なる暗記にとどめず、食品を扱うたびに(調理実習)身につくよう理解させる。
 - ・家庭の協力により実行に移し、習慣づけるように留意する。

パン食の献立にも、主食が米飯の場合と同様に、副食が必要であること(食品群がかたよらずとれるように)を指導しなければならない。パンの栄養分と米飯の栄養分とを比較させて、同様に副食の必要なことを感じさせ、これにふさわしい副食のくふうをさせたい。また、小学校の給食を思い出させたりして、家庭での食事の際にも活用させ、時にはグループで献立を作成させた申から、実習させることもよいことである。

〔備考〕

- ・31年度の問題のように、実際の献立として、飯、汁・皿(魚・肉類) ^{どんぶり}小井(野菜)が、取り合せがよくて食べ易い。この問題では汁をとらずに、ごまあえ・酢のものと同様な献立がよい事になる。昼食に牛乳をつけ、夕食の汁にb. とうふのすまし汁のところへ、わかめでもそえてあれば、五群があって、もっと理解し易い問題となったのであるまいか。
- ・33年度の問題では、4. が正解であるが、飲み物は、1・2・3と同様に牛乳がよい。市販のジュースには、V. Cは望まれない。そして、にんじんとほうれんそうのソーテーを、にんじん、キャベツのソーテーとするならば、全群が入ってたいへんよい。カルシウム源は、骨の磷酸カルシウムより、牛乳の乳酸カルシウムがより効果が高い。(日本人の食事には、磷酸は多過ぎるように思われる)

家庭でよい献立を作るために、忘れてはならない大切なことが三つある。その三つをあげてかんたんに説明しなさい。

答 {

1.	_____
2.	_____
3.	_____

A 献立の条件（栄養・味・経済・労力）について理解しているかどうかを問うている。

B よい献立の条件について、身についた知識が不足していたため、表現のしかたがよくわからなかったのであるまいか。

C 実生活に結びつくよう献立について認識させる。

1. 各家庭の献立を発表させて相互研究をさせる。
2. 一定の基準のもとで作らせて、お互に発表させる。

価格・栄養量・時間などを一定にする。一度ではむつかしいから、その一つずつについて作製させる。（時間の都合でグループ別にするのもよい）

（例）

- (1) 一日一人80円、100円、120円の献立をグループ別にして作らせてみる。
- (2) 食品群のうちある4つの群までの材料を示して、その他のどんな食品を入れて献立を作るかを試みさせる。
- (3) 献立を見せて、その中から時間の長くかかるものはどれかを考えさせて、日常生活に、時間の経済が大切であることを知らせる。

つぎの文の（ ）の中から適当なものをそれぞれ一つずつ選んで、その符号を○でかこみなさい。

白米 180ccの目方は約（ a. 100g b. 120g c. 140g ）で、その熱量は約（ d. 400cal e. 500cal f. 600cal ）である。

- A 米の重量とその熱量について理解しているかどうかをみようとしている。
- B ・計量について、身についた理解に欠けているのであるまいか。
 ・食品とその栄養量とが結びついていないようである。
- C ・計量については、できるだけ体験を通し継続的に指導する。
 ・分析表の活用
 分析表の指示は100gであるが、その食品100gとしてのみでなく、卵1個では、牛乳1本では、またこれ位のいも1個では何gであるか、等の方法で認識を深めるようにする。またお正月の後などでは、餅1片何calになるかを、1碗の飯のcalと比較させてみるなど絶えず生活の事実と結びつけるよう配慮したい。

昭和34年度 問題〔5〕

正答率 5.0%

つぎのような食品のあつかい方をした場合、失われるビタミンのうち、もっともたいせつなものは何か。それぞれ一つずつ()の中にかきいれなさい。

1. だいこん を用いるとき、葉をすてる。()
2. いちご をにてジャムをつくる。()
3. 重そう を使って だいず をにる。()

- A 調理法によるビタミン損失の知識をもっているかどうかをみようとしたものと思われる。
- B ・正答率5.0からみて、食品に含まれるビタミンを理解していないようである。
 ・食品の調理加工の知識が少ないのであるまいか。
- C ・分析表を活用する。
 ・正しい調理法を理解させる。
1. 大根の場合、葉にはすべてのビタミンが大根と比較して多いが、その中でもAが最も多い。
 2. 果物を数種あげてビタミンCを比較してみる。
 いちごは実を食べる果物として最高であるが、ジャムを作ると、長時間の加熱になるので破壊される。(ビタミンCと熱の関係)しかし、いちごは非

常に腐敗の早いものであるから(朝のものが夕方には悪くなる), たくさ

食 品	ビ タ ミ ン			
	A. J. U	B. mg	B ₂ . mg	C. mg
大 根	0	0.03	0.02	20
大 根 の 葉	9000	0.10	0.30	90
い ち ご	0	0.04	0.02	80
り ん ご	10	0.02	0.03	5
い ち ぢ く	30	0.02	0.02	10~15

んある時にジャムを作り, 貯蔵食品にすることは悪いことではない。むしろすすめるべきことであるから, 誤解のないよう指導しなければならぬ。

(8) 調理に際してはその過程に重きをおき, しかも科学的な理論の上に立って実習する習慣, 態度を養うように努める。

— 参 考 —

ビタミンB₁が100°Cで30分間, および1時間加熱されたときの, 酸性, アルカリ性による損失率をつぎに示す。

大豆の熟煮とビタミンB₁損失率

	prl	30分加熱	1時間加熱
酸 性	1.0	0%	3%
"	3.0	8	11
"	5.0	20	20
中 性	7.0	30	30
アルカリ性	9.0	91	97.6
"	11.0	95	100

昭和31年度 問題〔4〕イ

正答率 27.6%

つぎの文の()の中から, 適当なものを一つ選んで, それを でかきなさい。

みそ汁は, 水の(^{しる} a, b, c, d) 1%, 5%, 10%, 15%) くらいのみそをいれたのがよい。

- A 調味の基本的な割合を理解しているかどうかを問うている。
 B 調味料の基本について, よく理解していないようである。

C 実習を通して

1. 汁物の味つけ、塩味の味あい。
 2. 塩と味噌との関係。
- } を理解させる。

実習の時に、味噌汁には味噌を大きじ1杯とか2杯とかでなくて、汁の味は1%の塩味がちょうどよく、味噌100gの中には、およそ10gの塩が入っているから、塩の10倍量の味噌を使うとちょうどよい味となることを指導する。いいかえれば、水の10%の味噌が必要になる。しょう油は、約20%の塩をふくむとみて、塩の5倍使うことになる。

※参考資料

調味料	水との割合
塩	1%
味噌	10%

味噌の塩分含有量は約10%である。しょう油はやく20%弱の塩分をふくむ。
(製品によって差がある)

昭和34年度 問題〔14〕

正答率 0.0%

つぎの表は、ドーナツを作るときの材料と分量を示そうとしたものである。この表の空欄の()の中にそれぞれあてはまるものを書きいれなさい。

材 料	分量(計量器による概量)
イ. 小麦粉	100g ()
ロ. さとう	30g ()
ハ. ()	3g (小さじ 1ばい)
ニ. たまご	半個 (大きじ 2はい)
ホ. 牛乳	30cc (大きじ 2はい)
ヘ. マーガリン	5g (大きじ $\frac{1}{2}$ ばい)

注 1. 計量カップ (200cc)
計量スプーン
大きじ(15cc)
小さじ(5cc)
2. 左の材料のほかにあげ揚油を用いる。

- A 食物実習において、材料やその分量を知り、計量器を正しく使って調理することを、理解しているかどうかをみようとしている。

B 計量と調理の方法が身につけていないのであるまいか。

C 調理法の指導を科学的にする。

1. 正しい分量を指導する。
2. 食品の重量と容量との関係を知らせる。
3. 計量器になれさせる。

家庭で汁をつくったり、煮物をしたりする際にも、正しくはかるように習慣づける。また、計量器は家庭にもぜひ必要であるが、もし得られない場合には代用計器のくふうをさせる方がよい。たとえば、玉しゃくし1杯がいくら、家にあるスプーン1杯いくらというように活用させる。

また、時には家の水ひしゃくはいくら入るか等も確かめておくことよい。家庭人は、わが家のチャワンやコーヒーチャワンがいくら入るかを知らなかったり、病人の吸飲みがいくら入るか、水薬のびんが1回分何ccになっているか等、うっかりしているものである。こうしたものを生徒にはからせてみるのも面白い。

※参考資料

食品の体積と重量の関係(概数)

食 品 名	カップ 200 ^{CC} g	小 さ じ 5 ^{CC} g	大 さ じ 15 ^{CC} g
米	160		
押 麦	110		
小 麦 粉	100	2~2.5	6~7.5
粉乳, ベーキングパウ ダー, 澱粉, 重曹	120	3~3.5	10
きな粉, ごま, こしょう	80~90	2~2.5	6~8
小 豆	160		
味 噌	230	5.5~6	18
砂 糖	120	3	9~10
荒 塩	160	4	12
塩(精製塩), 酢, 酒	200	5	15
油, バター	160	4	12
しょうゆ, みりん	220	5.5	16.5

下の表のおおのの衣料について、イ、ロ、ハ、ニ、のとりあつかい方の中で、
 どれが適当か。繊維の性質から考えて、もっとも適当と思うものの欄に ○ を書き
 いれなさい。ただし、○の数は()の中に示した数だけとする。

衣料	あつかい方	イ. 必ず中性洗 剤 <small>せんい</small> を使う <small>ざい</small>	ロ. のりつけ をする	ハ. かげぼし にする	ニ. アイロン をかける (230°C)	○の数
1. 白い毛糸編の セーター						(2)
2. 白い綿織のブ ラウス						(2)
3. 白いビニロン のシャツ						(1)
4. 白いナイロン のブラウス						(1)

- A 各種繊維の正しいとりあつかい方(主としてせんたく法)が理解されているかどうかをみる。
- B ビニロン、ナイロンは市場に出ているが、生徒の衣生活にはまだこれらのものがあまりはいっていなかったか、またははいっていてもそれをはっきり知りえないため、区別ができにくかったものと思われる。
- C
- 化学繊維を含む各種の被服材料について、なるべく実際のもの、または標本を通して指導する。
 - 実物観察と同時に、科学的性質について指導する。
 - 生徒の経験発表をさせる。

問 イ. 必ず中性洗剤を使う。

羊毛繊維はスチール(毛鱗)があり、アルカリ性で温度の高い溶液で洗うと縮絨を起すため、必ず中性洗剤を使用し、30°内外の低い温度で、もまないようにしてせんたくしなければならない。

問 ロ. のりつけをする。

のりつけすることによって、布にはりができて摩擦を防ぐばかりでなく可塑性をそえるので、綿織物にはこの必要がある。

問 ハ. かげぼしにする。

毛織、ナイロン、ビニロンは、直接日光にあてると淡黄色に変化する

るので、その織物のもつ美しさをそこね、また繊維を弱くするので
 かげぼしにする。

問 ニ. アイロンをかける。

30, 31, 33年度の必修, 選択の問題を参照されたい。

昭和34年度 問題〔15〕

正答率 66.7%

つぎの型紙を選ぶとき、からだのどこの寸法を基準にするのがよいか。()の
 中に書きいれなさい。

イ. ブラウス() ロ. スラックス()

- A 型紙選定の心得があるかどうかをみようとしている。
 B たけ をさきに考えた生徒がまちがえたのであるまいか。
 C ・型紙の製作過程より、採寸か所を明確にする。
 ・型紙と身体の部位との関係をはっきりさせる。

平な布を裁断して、立体的な身体をつつんで着る衣服をつくるのであること
 から考えて、身体丸みを基本として考えてゆく方が妥当である。したがって
 上半身は胸囲を基準とし、下半身は腰囲を基準とすべきである。

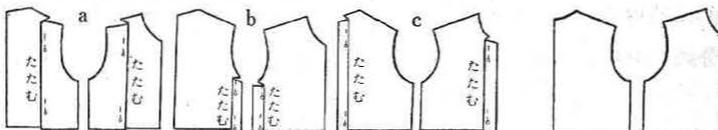
なお選定に、各人にあった適当なものが得られない場合は、大き目の型紙を
 選び、補正して使用する。

昭和32年度 問題〔8〕イ

正答率 1.68.2% 2.0.0%

イ. 下の型紙をつかってブラウスを作ることにした。それについて、つぎの間に答
 えなさい。

1. 胸囲が型紙より小さいので、補正 2. 胴囲を5 cm 小さくするには、どの
 しなければならないが、下の a. ようにしたらよいか。下の図の中に寸
 b. cの三つの方法のうちどれれ 法をいれて示しなさい。
 がもっともよいか。一つ選んでそ
 の符号を○でかこみなさい。



A ブラウスの型紙の補正について、理解しているかどうかをみようとしている。

B 問2. では、胴囲の位置で縮める寸法は、型紙についてはそのようになること
の理解が、はっきりしていなかったものと思われる。

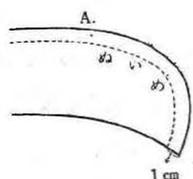
C

1. 県中学校長会編「中学校職業・家庭科指導の手びき」第二集参照。
2. 型紙の補正については、必ず実習を通して理解させる。
3. お互どうしであわせ、その補正箇所を相互研究する。

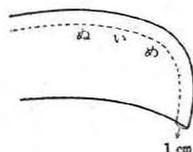
昭和33年度 問題〔4〕イ

正答率 20.0%

イ. 白ブロードを用いて丸衿のブラウスを作ることにした。衿の丸みのしまつのしかたを二つ書きなさい。(下のA・Bの図の中に、しまつのしかたの図を、それぞれ一つずつかき入れて、説明すること。)



(説明)



(説明)

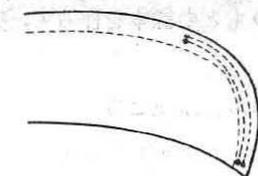
A ブラウス製作の技術(特に衿の丸みのつくり方)が、会得されているかどうかをみようとしている。

- B
1. 紙上説明に困難を感じたものと思われる。
 2. 各自が実習した衿の丸みのつくり方については、一通りしか実習していないむきがあるようである。

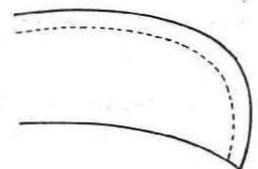
- C
1. 数種の標本を準備し、活用するよう指導する。
 2. 丸みのおちつかせ方を理論的に説明する。

理論的に納得させるためには、えりの丸みというだけでなく、丸みの部分だけの部分ぬいをやらせるのも一つの方法である。

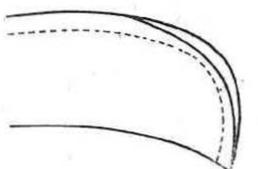
丸みのしまつのしか
たの例



丸みの部分の縫い
しろをこまかく二
本ぬいちぢめ、う
らえり側にたおす



0.5cmおき位に切
りこみを入れる



丸みの部分のぬい
しろを0.3cm位に
裁ちおとす

縫いこみの部分のひろさに対して、それよりせまい部分におさめなくてはなら
ないことをもとにして、

ぬいちぢめたり

切りこみを入れたり

ぬい代をごく少なくし

などで、おさめやすくする。

この理論は、袖山のぬいちぢめ、スカートのすそ、和服の袖まるみなどにも考
えさせておく方がよい。

昭和31年度 問題〔4〕口

正答率 14.8%

つぎの文の()の中から、適当なものを一つ選んで、それを でかこみ
なさい。

ブラウスのえりつけをよくするには、^aえり身ごろと同じつりあいにする。^bえり
^cを身ごろよりややつらせる。えりを身ごろよりややゆるめる。

- A えりつけの要領が会得されているかどうかをみようとしている。
- B 1.ブラウスのえりつけは、実習していない生徒もあったと思われる。
2. えりもとのスタイル図が指示してあれば、理解ができたと思われる。

(備考参照)

C 出題されているようなえりもとの標本を作って、実習に際して比較検討させることも一方法である。

でき上がった部分と えりをつけて開き、	$\left\{ \begin{array}{l} \text{えりのゆるんだところ} \\ \text{えりをややつらせたところ} \\ \text{えりを身ごろと同じつりあいにする} \end{array} \right\}$	} が見えるようにした 標本を作っておく。

備考

折えりや、ステンカラ等でえりつけの加減が違うので、えりもとのスタイルが図示してあれば、いっそう出題の意味がはっきりするであろう。

昭和31年度 問題〔8〕 正答率 イ. 12.0% ロ. 24.0% ハ. 0.0%

スラックスの製作について、つぎの間に答えなさい。

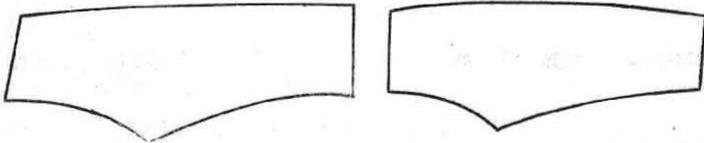
イ. 自分にあった型紙を選ぶには、どことどこ寸法をもとにして選んだらよいか。答の()の中に書きなさい。

答()と()

ロ. 布を裁つときには、たての布目を型紙にどのようにあわせたらよいか。つぎのうちから、よいと思うものを一つ選んで、その符号を○でかこみなさい。

a. すその線に直角にする b. わきの線にあわせる c. 胴まわりの線に直角にする

ハ. つぎの図は、すそがシングルで胴まわりにベルトをつけた形のスラックスの型紙である。各部の縫いしろをこの図の外側に書き、それぞれの寸法を記入しなさい。



A スラックス作製の、基礎技術の理解ができているかどうかをみようとしている。

1. 採寸の基本か所について明確な態度をもっているか。
2. 裁断のしかた（布目と紙型のおき方）に自信があるか。
3. 縫代について正しい考え方ができているか。

B ・31年度において、教材としてスラックスをとりあげてなかった学級もあったのであるまいか。

- ・スラックスとかシングルという用語を、知らない生徒もあったようである。

C 県中学校長会編「中学校職業・家庭科指導の手びき」第二集参照。

- ・各自の持っている実物を観察させる。
- ・スラックスの製作を体験させる（裁断も自分でやらせる）

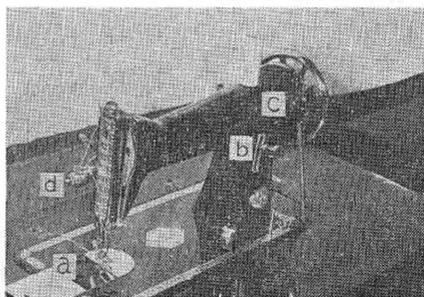
実習させる時に、実物の表、うらともによく観察させ、布の種類やわきポケットの有無によって、縫代のちがいを生ずるから、その点なども指導して裁断にうつることが大切である。また、とくにわきポケットのある場合などは、部分縫（半開きにしたもの）を用意してみせた方がよい。生徒の中には、よく布の縦、横も知らずに切断することがあるから、こんなことも注意した方がよい。

昭和30年度 問題〔10〕

正答率 61.0%

ミシンを使用しているとき、下のような場合にはどの部分を操作したらよいか。右の図中の符号を一つずつ（ ）の中に書きなさい。

- () 1. 針目があらいとき
- () 2. 下糸を巻くとき
- () 3. はずみ車が動かなくなったとき



昭和34年度 問題〔9〕

正答率 イ. 32.7% ロ. 17.3%

つぎのイ. ロ. のミシンの状態はどのような原因によっておこるか。下の中から原因として正しいと思うものには ○ を、そうでないものには × を、（ ）の中に書きいれなさい。

イ. 上糸がきれる。

- () 1. ボビンケースのねじのしめ方が強すぎる。
- () 2. 針の平たい方を外側にしてさしこんである。

ロ. ミシンが動かない。

- () 1. 送り金がさがりすぎている。
- () 2. 針の先がまがっている。

- () 3. 上糸調子かげんねじのしめ方が強すぎる。
- () 3. 押え金のねじがゆるんでいる。
- () 4. 押え棒調節ねじのしめ方が強すぎる。
- () 4. 大がまの中に糸がくいこんでいる。

- A ミシンの構造から、正しい取扱い方、および修理の方法を知っているかどうかをみようとしている。
- B 経験不足のため、ミシンについて簡単な操作はできるが、調整は人に頼むという傾向が強い。
- C ・家庭用機械に興味をもたせ、各自に分解調整の練習をくりかえさせる。
・いく種類かの用布、糸、針で体験させる。

ミシン故障の原因は、取扱いの不明や、操作に習熟しないためであって、如何なる原因によるかを発見し、機械操作の理論を考えて処理する態度を養うように指導する。

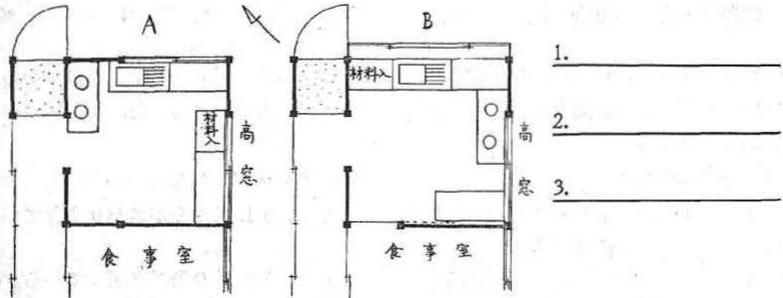
備考

中学校に現在あるミシンの数では、相当無理な点もあるが、最近家庭に普及しているので、家庭の協力も考えられる。同時にまた学校の設備充実に努めなければならない。

昭和30年度 問題〔6〕

正答率 52.5%

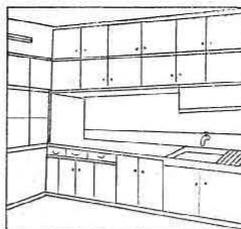
下は台所の図である。AをBのように改善した。Bの方が能率がよいと思う理由を三つ書きなさい。



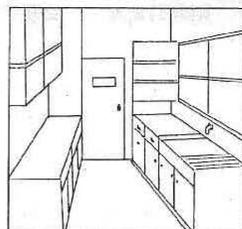
• 30年度の問題について。

能率的な合所には、つぎの4つの型がある。

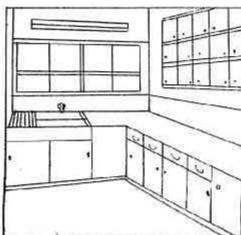
1. A図は上記の何れの形にも該当しないので、B図(すなわちL形)に改善され、作業動線が短くなったわけである。



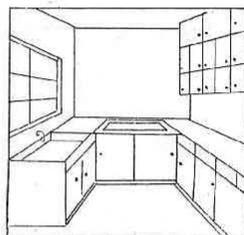
(1) 直線形



(2) 平行形



(3) L形



(4) U形

2. 窓が広くとられしかも出窓になったので、採光もよく広く使用されて能率的である。

3. 直接食事室へ連絡することができるようになって便利である。

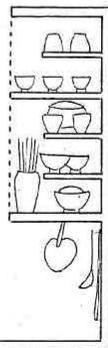
• 31年度の問題について

作業台の高さは、身長× $\frac{1}{2}$ の高さが適当である。

• 33年度の問題について

作業内容から作業台の種類、およびその配列とが考えられるわけである。つぎに個々の作業台には能率をあげるという目的にかなうよう、その高さや周辺に置かれる用具等が考慮されることになる。すなわち立ったままで上下水平の線で、手のとどく範囲に道具を整備することが必要である。

右の図はその1例を示したものである。



木造住宅について、つぎの意見のうちで適当と思うものには ○ を、そうでないものには × を () の中に書きなさい。

- () a. 居間や茶の間等は南向きにし、台所は西側にするのがよい。
- () b. 寝室の広さは、一人当り三畳^{しん}くらいが適当である。
- () c. 二階のへやは日あたりがよいので、老人のへやにするとよい。
- () d. 客間の基準照度は100~50ルクスであるが、台所の照度もこれくらいがよい。

- A 住居の条件についての理解をみようとしている。
- B 日常生活に慣れきって、あるいは逆に理想に遠い生活のために、住宅に対する考えが、全体に不足している。
- C
 - ・ 県中学校長会編「中学校職業・家庭科指導の手びき」参照
 - ・ 保健，理科などとの関連に留意する。

つぎの a. から e. までの支出は家計の費目のうちのどれにはいるか。 の中からそれぞれ一つずつ選んで、その番号を () の中に書きなさい。また、選んで () の中に書いた費目は、家計の費目を生活必要費と文化費とに大別した場合には、それぞれどちらにはいるか。関係のあるものを——で結びなさい。

- | | |
|--------------|-------|
| a. ゴム長靴代 () | |
| b. 映画観覧料 () | 生活必要費 |
| c. 電 球 代 () | |
| d. 町 民 税 () | 文 化 費 |
| e. 生命保険料 () | |

- | | |
|--------|--------|
| 1. 食物費 | 5. 衛生費 |
| 2. 被服費 | 6. 公共費 |
| 3. 住居費 | 7. 貯蓄費 |
| 4. 教養費 | 8. 交際費 |

- A 家計における支出費目の分類が、理解されているかどうかをみる。
- B 生活費分類の体験が少ないことが、5.6%の低い正答率となって現われたものと思われる。
- C
 - ・ 直接家計に関係できる機会を作る。(夏期休暇中など)
 - ・ 各家庭の生活費分類をさせてみる。発表は%とする。

・例題をつくり、反復練習させる。

つぎに費目内容のまちがい易い例をあげる。

×食器など……食物費として考えやすいが、これは住居費である。

×長靴、はき物、たび、こうもり、帽子……すべて身につくものは被服費の中に入っている。

×神仏の供物に関する費用(さかき、お布施、お礼など)は教養費の中に入れる。

×生命保険料……衛生費に入れがちであるが、これは貯蓄費である。

×電球および電気器具……光熱費に誤り易いが住居費である。

×化粧石けん……衛生費

×洗濯石けん……被服費

×洗濯代……被服費

支出を大別すれば、生活必要費(衣、食、住、光熱費)以外は、すべて文化費として考えられるので、これを明確には握させるよう留意する。

一 備 考

家計の発表はむづかしいものであるが、収入を表に出さなくて、支出合計から%に現わせれば発表させやすい。

昭和32年度 問題〔4〕口

正答率 31.7%

下の表は、ある町におけるA・B・Cの三つの家庭について、一年間の家計の費目の割合を示したものである。一般的に考えると、この表では、どの家庭がもっともくらしが楽だと思われるか。一つ選んでその符号を○でかこみ、その理由を書きなさい。

家庭 \ 費目	食物費%	被服費%	住居費%	光熱費%	文化費その他%
A	53.0	9.0	4.5	5.5	28.0
B	45.0	10.0	5.0	5.0	35.0
C	40.0	11.0	6.0	4.2	38.8

理 由 _____

A エンゲル係数の理解程度をねらいとしている。

B この問題のように、理由を記述することは、理解があやふやではおぼつか

ない。表現力の不足も重なって正答率はよくない。

C 家計簿の記帳と決算を行うことによって、家計の内容を認識させるようにする。これはぜひ家庭の協力を得るようにして、家計簿の決算の結果や予算について知らせてもらい、自分の家の様子を知るように努めさせる。

また1か月の収入10万円と、2万円の家庭を予想して予算を作らせてみる。(家族数、年齢等を同じ条件にする) 収入が5倍になったからといって米を5倍食べることはできない。いわしを牛肉にしてみたところで、食べるのには限度がある。同様に生活必要費について考えさせる。子供を大学に学ばせることは、2万円の家計では出来がたいであろう。しかし、その中で大学へあげる努力も考えられるであろうし、また必ずしも大学へやらなくとも、一人前の成人に育てることも可能ではあるまいか。といったように、生活にふれて考えさせる。

昭和31年度 問題〔4〕ハ

正答率 69.0%

幼児にあたえるおやつとしては、ホットケーキとみかん、ようかんとなし、おむすびとキャラメル、の三組のうち(ホットケーキとみかん、ようかんとなし、おむすびとキャラメル)の組み合わせが適当である。

A よいおやつの条件(栄養上)についての理解を問うている。

B, C

- ・体験を通しての理解が大切であり、実物または実際の場について指導する。
- ・幼児のおやつの栄養的意義を説明し、よいおやつの条件を知らせる。
 - ・栄養素がととのっていること。
 - ・消化がよく、つぎの食事にさしつかえないこと。
 - ・適当な満腹感のあること。
 - ・衛生的であること。

○ ホットケーキとみかんがよい理由

栄養……幼児のおやつでは、1回の食事と考えなくてはならないから、すべての栄養素の含まれているこの組み合わせが適当である。

ホットケーキの原料は、卵、牛乳、小麦粉で、三熱量素はもちろん、カルシウ

ムや鉄分等幼児に必要な無機質も含まれる。ミカンを添えれば、ホットケーキに不足するビタミンA・Cを補うことができる。(小麦粉は米よりもV、B₁を多く含む)

× ようかんとなし

熱量だけはあるが、他の栄養素は少なくいずれも消化が悪い。ようかんは原料が小豆と寒天で多量の糖分があるので、消化が悪い上に極端な酸性食品になる。なしは、石細胞といって、他の果物にない固い細胞もっているので、幼児に不向である。

× おむすびとキヤラメル

熱量だけはあるが、糖質が多く酸性食品のみであり、消化に時間がかかりつぎの食事にさしつかえる。

昭和33年度 問題〔8〕イ

正答率 15.0%

つぎの文の()と{ }の中から、もっとも適当と思うものを、それぞれ一つずつ選んでその符号を○でかきなさい。

幼児は一般に(a. 2才 b. 4才 c. 5才)をすぎると反抗的になる時期がくる。この時期の幼児の扱いについては

- | | | | |
|---|--|---|-------|
| { | d. 反抗するたびにしかって、反抗するのを直すようにする | } | のがよい。 |
| | e. 自分をみとめてほしいというこどもの気持を知って、ほめたりいいきかせたりする | | |
| | f. いつも、やらせたいと思うことの反対のことをいって、反抗心を逆に利用する | | |

- A 乳幼児の精神発達とその扱い方についての理解を問うている。
- B 一般にこの種の問題は、生活の中で経験していても、はっきりした理解はできにくいものである。とくに幼児期に限定して問われた場合、その特質を把握していなかった事情がうかがわれる。
- C 各自の幼い時のことを、母から聞くようにさせる。

—参考事項—

反抗期とは、自我意識が非常に強くなってくる時期である。

第一次反抗期はふつう2才から4才までの間に現われてくる。子供の心に「自分」という意識が非常に強くめざめてくる時期なので、おとなに何かいわれる

と、必ず「イヤ」といってはねかえすのである。この時期にはあんまり押さえつけないで、できるだけ「おりこうだから」というように、おだてるよう扱うことがこつである。

意志の強さ	反抗期の有無	反抗期を経過したもの	反抗期のなかったもの
	正常児童	84%	16%
意志薄弱児童	21%	79%	

右表にみられるように、意志薄弱児は反抗期がなかったという子供が多いが、正常児は大体経過する時期である。
—以上は山下俊郎氏「児童心理学」より—

昭和32年度 問題〔12〕口

正答率 11.8%

下の病気のうちから特に乳幼児にゅうようがかかりやすいものを二つ選んで、その番号を○でかこみなさい。また、○でかこんだ病気の症状しょうじょうはどれか。右がわの症状の中からそれぞれ一つずつ選んで、病気と_____で結びなさい。

- | | |
|---------------------------|--|
| 1. はしか | a. 概して熱はないが、咳 <small>がい</small> がつづけてでる。 |
| 2. 肺炎 <small>はいえん</small> | b. 多くは熱があって、呼吸 <small>こきゅう</small> は苦しそうである。 |
| 3. 百日咳 <small>せき</small> | c. はじめ風邪 <small>かぜ</small> に似ているが、目がまぶしそうになり、口の中に白い斑点 <small>はん</small> がでる。 |
| 4. 腸チフス | d. 高い熱がつづいてでるが、その割合に脈はく数が多くならない。 |

- A 乳幼児のかかり易い病気、およびその症状についての知識を問うている。
 B 乳幼児に限定されているが、その特徴をはっきり理解していなかったものと思われる。
 C ・説明とともに、図やスライド等の視覚教材も活用し、病気の原因や症状を知らせ、簡単な看護の方法を指導する。
 ・罹病統計表によって、年齢、死亡率などを知らせる。

統計表についてはできるだけ新しいものを得られるように努める。

(統計表は保健所、県統計課などで調べることができる)

このごろの家庭には、幼児がいないことが多いが、各自が幼児だった時にどんな病気にかかったかを調べさせ、学校で発表させてみるのも一方法であろう。中学時代では、こまかい看護までは指導できないにしても、風邪気の子供

の眼が赤くなっていたりしたら、はしかであるまいかと、家へつれて帰るような知識をもたせたいものである。はしかは一度熱が出て2、3日でちよっと引き、一応風邪がなおったように見えてまた発熱する。その前に眼がまぶしそうになるのであるから、おいこませないように注意が望ましい。こうした症状をよく話してやるなら、案外中学生でも興味をもつのであるまいか。

昭和33年度 問題〔12〕口

正答率 a. 45.9% b. 50.0%

つぎの a. b. に関係のあるものを、の中からそれぞれ一つずつ選んでその番号を()の中に書きなさい。

() a. ゲージ

() b. ムニエル

- | | |
|---------|--------|
| 1. カロチン | 3. 調理法 |
| 2. 化学繊維 | 4. 編物 |

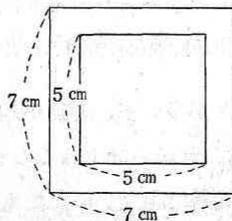
- A 家庭科の実技に必要な専門語を理解しているかどうかをみようとしている。
- B 方法は知っていても、用語を理解していないように思われる。
- C
- ・簡単な日用語的専門語を指導しておく。
 - ・家庭にその方法を取りこむように指導する。

県中学校長会編「中学校職業・家庭科指導の手びき」第二集参照

- ・ゲージについて詳細に説明し実習させるよう留意する。

ゲージとは編物に関する用語でためしあみのことである。これは編みたいと思っている毛糸を使って、これから使う針でしかも編むかたさも希望しているかたさにして編んで、編目と寸法の間係をわり出してみる。これを基準として出来上り寸法に必要な目数を決め物を製作するのであるから、よく徹底させねばならない。

ゲージを作る方法の一例



7 cm角編んで、その中の5 cm角を基準として、製作品の型紙の寸法より、あむ目数を割り出す。

・ムニエルとは、魚に塩、胡椒して小麦粉をまぶし、フライパンを熱して油、(またはバター)を入れ、その中へ魚を入れて、ふたをして蒸し焼きする方法である。家庭での焼き物料理として、ぜひ取り入れたいものの一つである。焼き上げた後のフライパンでは、さらにつき合せとしてにんじん、ほうれん草等をソーテーにすることも、合せて指導するとよい。

昭和34年度 問題〔10〕

正答率 0.0%

つぎのおのおのについて関係のあるものを、下の の中から選んでその符号を () の中に書きいれなさい。

1. プトメイン () 2. ソラニン () 3. グルテン ()
4. コロカルソ ()

- | | | | |
|----------------------------|----------|------|------|
| a. りんご | b. みそ | c. 魚 | d. ふ |
| e. らくが ^か ん(粉菓子) | f. ジャがいも | | |

- A 食品に関する特殊な物質についての知識を問うている。
B これ等についての知識をほとんど持っていないように思われる。
C 新しい食品加工の方法や、食品衛生に関する知識もあわせて指導する。

1. プトメイン (魚) 動物蛋白質が腐敗した時生ずる腐敗蛋白質の名前。
2. ソラニン (ジャがいも) 発芽時期になると、皮や芽(特に多くなる)の処に生ずる毒素。人間が死んだ例はないようであるが、春先に芽の出たジャがいもで、馬や牛が中毒死した例がある。調理の時皮が多少残っても、熱を加えると毒性がほとんどなくなる。
3. グルテン (ふ) 小麦粉の蛋白質で粘性を持つ。ふは、このグルテンを利用して作られている。
4. コロカルソ (味噌) 強化味噌に(カルシウム強化) 使用されている炭酸カルシウムの商品名。商品名ではあるが常識化されている。強化剤の指導も大切である。

一 備 考

・ブトマイン中毒について

ブトマインはそれ程の毒性はなく、これの生ずるような場合には、その食品に食中毒を起す一定の細菌が繁殖して、毒素を生成するためである。これが中毒の原因になる。したがって、ブトマインそのものの中毒ではない。一時はブトマイン中毒といって、死亡率絶対多しとみた向もあったが、現在では、それほど重点をおかなくなった。

(高校教科書 食物Ⅱ 中教出版株式会社編 P176 参照)

ま と め

1. 出題の傾向について

問題は、大別して、必修（このうちに共通と選択とがある）と選択になっている。そのうち必修は、五問題である。

出題傾向を一応分類してみると、つぎのようにまとめることができる。

必修（共通問題）①～⑤	食物(4) 家庭経営 (1)
必修（選択問題）⑥～⑩	食物（調理）……………⑥
	被服 { 整理・洗濯……………⑦～⑧ 裁縫……………⑨
	保 育……………⑩～⑪
選択の問題 ⑫～⑳	食物 { 食 生 活……………⑫～⑭ 調 理……………⑮～⑰
	被服 { 衣服材料……………⑱ 裁縫 { 型紙仕立……………⑲～㉓ ミ シ ャ ン……………㉔
	住 居……………㉕～㉖
	家 事 経 済……………㉗～㉘
	保 育……………㉙～㉚
	その他（食物被服に関するもの）…㉛～㉜

共通必修については、食物が圧倒的に多い。男女共に学習すべき知識・理解であるから、当然であろうが、それに比較して、必修選択には、被服関係の問題が多い。

選択課程の問題となると、各分野・項目にわたって広く出題されており、家庭科としては、なかなか興味深いものがある。

選択の問題は、それだけに、解答率も全般的によくない。

選択の職業・家庭科は、英語との組みあわせの関係上、当然高い程度と内容が要求されているわけであろうが、地域的にみて、都市では主に英語を選択し、農山村の小規模学校では、職業・家庭科を選択することからみて、家庭科を選択した生徒の学校の実情や、生徒の学習能力からみて、問題が内容的にむずかしかったのではないかと考えられる。

ここでは、問題の傾向について、あまり内容的にはふれないが、各問題に対する詳細は、問題の解説をみていただきたい。

ここに、問題全体を通してみた、家庭科指導の基本的なものだけを、総括して、まとめてみたいと思う。

2. 教科研究の要点

- (1) 広範な科学知識を持ちたい。
- (2) 豊富な生活経験を持ちたい。
- (3) 前二者を総合した実践的行動をとりたい。
- (4) 行動に習熟し、より高い技能を持ちたい。
- (5) 整った教具や設備を持ちたい。

これらのことがらは、家庭科の教師としてのみでなく、家庭人としても必要なことである。

家庭科は高度の科学知識が必要であることは、いまさらいうまでもないことであるが、学校生活では、指導がかならずしもじゅうぶんであるとはいわれない。ましてや技術・家庭科の実施をみれば、調理・被服製作・家庭工作・設計・製図・家庭機械などの技術学習が第一線に立つことになり、この点従来の職・家における第5群の「家庭生活およびこれに必要な技術を学習させる」という考え方とは違ってきて、積極的な技術学習が、近代技術の流れの中で取り上げられてくる。

これらの取り扱いが容易なことではない。教師の修養とともに、家庭の理解、協力が要請されるゆえんである。

上あげた、五つの研究の要点について、それぞれをくわしく述べればつぎのようになる。

(1)・・・生活現象の各部面にわたって、その原理や原則がわかり、それらの知識にもとづいて行動できるようになったら、実に楽しいことである。また、科学教育の振興の叫ばれている現在、進歩してゆく科学水準にあわせて、家庭生活を進めるよう努力しなければならない。しかし、日常生活の疑問は数多い。簡単な例をあげれば同じ食物を同量、同条件の生活程度の中で食べていても、肥える人と、肥えない人がある。医学的には、もちろん相当の根拠はあっても

決してすべてではない。製薬会社の宣伝のように、薬が体に有効ならば病気になるはずもないし、なってもすぐ回復しなければならぬはずである。そうした、理くつ通りにゆかないことの多いことも現実である。

(2)……のことがらが必要になる。

いろいろな生活現象についての判断は、経験によってかなり正しくできることがあるものである。初児を育てるときの親の不安は、科学的知識だけではすまされない一つの例であるまいか。生活科学は、あらゆる面から合理化され能率化されなければならないが、反面実践活動を通すことによって、確かなものになることができる。この意味で理論と実際が結びつく、指導者となるよう努力したいものである。

生徒に献立を立てさせるにも、教師がみずから経験し実践しておれば、理論だけで指導するよりは立派な批判や指導ができるわけであって、時には、物価を問題にしなかったり、東京の出廻り品は知っていても、その地方における出廻り品を知らなかったりすることもある。

さらに近代技術の要請からみれば、機械・電気を高度に活用し、また化学的に処理する科学技術が必要である。それらの取り扱い、この教科においては科学そのものとして扱われるのではなく、調理、被服製作・整理、家庭工作などの技術に活用される機械・電気である。そこには当然整備や修理の技術が必要であり、そのための分解・組立・給油などの実技がともなってくるので、教師にとっては容易からぬこととなる。技術・家庭科では、科学技術の学習を中軸として、家庭生活に関する学習を、これと不離の関係において学習させようとしている。これらの点から、教師の生活経験が重要であると同時に、家庭の理解、協力がこの教育の効果を高める要素ともなるわけである。

(3)……理論と生活と結びついた時には、すぐ実行したい。

実行力のない指導者では、能率はあがらない。季節の加工食品をやらうと計画していても、さて時間がない。いつやらうか……と考えているうちに、いちごや桃の季節が終ってしまう。すぐ実行できるようになりたい。

したがって、つぎの問題がでてくる。

(4)……仕事がさっとでき、しかもより気分のよいものにしたい。何でも他力本願でなく、自力でやるように努力したいものである。いうは易く、行うは難

いもので、なかなかできるものではない。

毎日のテレビ料理をみて、簡単そうだと思っても、調理の技能を持った人でないと、そうやすやすとできるものではない。科学的な基礎をもって、技術を習得するのでなければ、はやく熟練することはできないのである。

(5)……前述の四つの要項に合致した指導者があったとしても、学校に設備がなかったとしたら、まったく効果はうすれる。学校の乏しい設備費では、無理の点も多いことであろうが、誠意をもって努力してゆきたいものである。また同時に、わたしたちは、家庭にできるだけ便利な器具や、設備をしたいものである。

欧米諸国の家庭では、電気冷蔵庫や、掃除機のない家庭は少ないとか、反対に写真機はそんなによいものを持たないし、無い家庭も多いそうである。参考までに、ある高校の調査例を示すならば、写真機は約40%、電気器具は、洗濯機を除いては、ごく少数で、5%以内である。(高校生の家庭) 考え方のちがいがあまりにも大きい。

ドイツの主婦に、半熟卵の温度を聞かれたある医師の話は有名であるが、日本の家庭には、だいたい、温度計さえないのである。これも調査してみると、現在8%くらい家庭しか持たない。(体温計はほとんど備えてある)

秤も同様である。何となくいいかげんな生活になり易いわけで、幼い時から習慣づけるためにも、ぜひ設備したいものである。

(金の使い方を考えなければならぬ。結婚式の無駄な費用をはぶくだけでも設備できる)

3. 指導の基本方針について

(1) 社会の進歩にあわせた指導

科学の進歩はめざましく、それにしたがって、産業の発達も偉大なものがある。生産と消費は、車の両輪のようなもので、家庭科における、科学的知識にしても、学習経験にしても、また教材教具にしても、めまぐるしい進歩発達に即応できるよう努力しなければならない。

最近では、栄養基準まで、改訂された。全国統計からみても不足する栄養素や、食品が、例年同じでよいわけではないのである。

被服材料も、つぎからつぎへと便利な新製品がでている。それらに対する新知識は、できるだけ早く身につけ、また、必要によっては、早く教材におりこむようにしたいものである。

(2) 他教科と連絡を密にし、関連のある指導をする。

家庭科は、各教科の総合された知識が必要である。各々の単元に応じて活用するようにしたいものである。それはまた、実際の生活にも応用させたい。理科とちがった活用面を指導できるようになりたい。

生物、物理、化学、保健、社会等広い部面にわたっての関連性を考え、短い時間も有効に能率のよい指導をしたいものである。

(3) 生活の事実や、視聴覚教具を活用する。

教材の取扱いには、生活の実際を通すことは、最も望ましいことである。しかし、全部が家庭生活の経験から得られるものでないから、いろいろのくふうが必要である。保育、住居等では、映画や、スライド等の視覚教具を活用し、統計表、その他図表をくふうし、しかも新しいもので指導できるよう努力したい。

(4) 実験や、実習による指導をする。

知識を実験、実習によって、確実なものにしたい。それには前述のように、基本的な設備はぜひほしい。食物、調理実習をするにも、調理用具から、燃料まで持参しなければできないようであれば、やることが、おっくうになり、生徒の興味も薄くなる。

ミシンは、50人に2～3台しかない学校で、徹底した指導は無理である。しかし、学校の予算も限られていて、あらゆる部門にわけなければならないこともあるが、できるだけ、家庭の協力を得て実習させるように努力したいものである。

(5) 家庭の協力を得て、実生活に活用させる。

学校での部分的な実験、実習を、実生活に結びつけ、身についたものにしたものである。このことがさらに進んで生活改善にまで実行できるようになれば、いっそう効果のみえたことになる。改善には、お金のかかるものと考え易い人もあるが、子供が、父親に、たばこをやめて牛乳を飲むよう提案することも改善案である。たばこも牛乳ものんでいる家庭は、たばこ代の半分だけでも

貯蓄にむけて、電気冷蔵庫を求める資金の一部にむけようとか、一年一回位の家族リクレーションに廻すとか、考えればいくらもある。日本では、だいたいの男子だけで楽しむ会合が多すぎるといわれている。ぜひ子供たちの発言を入れた家族会議をもち、あたたかい民主的な楽しい生活にひとり得る家庭をつくる意欲と、実行力を持つようにしてゆきたいものである。

第 6 群

第 6 群

昭和30年度 問題〔1〕

選択共通問題

正答率 33.1%

右の表は、昭和27年末調
べの、本県の工業統計によ
って作ったものである。
この表をみて、つぎの間に
答えなさい。

	小・中 工場	大工場	合 計
工場数の割合	98.7 [%]	1.3 [%]	100.0 [%]
従業者数の割合	66.1	33.9	100.0
生産額の割合	48.1	51.9	100.0

1. 小・中工場と大工場をくらべると、生産額の従業者一人当りの割合は、どちらが大きいか。

答 _____

2. その理由 _____

- A. 本県における工業の生産性を、小・中工場と大工場の数や従業員、生産額の割合を示して比較させ、小・中工場の生産性の低い理由（逆にとれば大工場が高い理由）を問うている。
- B. 生産額の従業者一人当りの割合という意味がわかりにくかったと思われる。従業者一人当り生産額指数でもそえてあれば、はっきりしたかもしれないが、この資料では、従業者数の割合と、生産額の割合から考え出さなければならぬことになる。すなわち、小・中工場対大工場の従業者の割合が66.1 : 33.9と約2 : 1であるのに対し、生産額の割合が48.1 : 51.9と約1 : 1に近いことから、大工場における生産額の、従業者一人当りの割合が大きいことを知ることになる。

この理由は、近代工場形態をとっている大工場と小・中工場の相違と考えられるわけであるが、生徒の中には、数字の比較上の理由をのべたものもあるかもしれない。いずれにしても、正答率33.1%はこうした資料を読みとる力に欠けていることを物語っている。

- C. わが国産業の特色の一つは、中・小企業が大きな比重を占めていることであるが、これは少数の大企業が、大資本で多額の生産をあげている下で、多

くの小企業が、不利な条件で細々とした生産をつづけ、これが国内産業の大きな問題となっていることはいうまでもない。

ここでの問題は、本県内におけるそれらの関係を具体的に示したもので、工業県を目ざす本県工業の県民経済、県民生活との関連への理解を意図して、取り扱う機会がもたれるべきであろう。このことは、生徒の将来生活—就職—にも結ばれるものであって、近代技術がくみこまれている生産現場の作業方式、管理方式、労働方式と、密接不可分の要素をもっていることを自覚させるべきである。

(備考)

政府の中・小企業対策の対象としては、資本金一千万円以下で、従業員は工業で300人以下、鉱業で1000人以下、商業では30人以下となっている。

昭和31年度 問題〔1〕 必修問題 正答率 イ、65.0% ロ、49.3%

工場を経営して作業能率をあげるためには、作業環境と従業員とに対して、どんなふうが必要か。それぞれ一つずつ書きなさい。

- イ. 作業環境 _____
- ロ. 従業員 _____

- A. 職業生活を健康で安全に過ごし、仕事の能率を高めるに必要な一般的な基礎知識を、具体的な工場経営の立場から、作業環境と従業員に分けて、その対応策としてきいたものと思われる。
- B. この問題のように、工場を経営して作業能率をあげるためには、……と生徒を経営主休の側において考えさせてはいるが、問題はむしろ、生徒が作業をする立場にたって考えなければならないのであるまいか。そうすれば、問イ、の作業環境を快適なものにするために、何が望まれるかは働く立場からいろいろ考えられるし、問ロ、における従業員にしても、従業員となる場合(就職を想定して)、自己の才能をじゅうぶんに生かす個性にあった職場が望まれるであろうし(適正配置)、さらに仕事の能率をあげるために技術に熟達する必要があるなど、当然考えられねばならなかったのに、正答率50%に満たなかったのは、現実的視野への要素に欠けていたためと思われる。

C.

1. この問題で表面的に考えられることは、作業能率増進のための管理ということであろう。それを生産管理や人事管理の両面から、作業環境と従業員について考えさせている。このような管理計画は企業の大小を問わず、現実的にあらゆる職場で実施されていることがらであり、農家であっても例外でないことを、生徒に気づかせ発見させるよう具体的に扱うことがよい。たとえば、農家において生産を向上させるために、生産手段としての機械化がはかられたり、経営主体者を中心として労働力の配分、組織、統制がおこなわれ、一家をあげて増産にとりこんでいく。そこには生産技術の改善や合理的経営が常にくふう反省される。また農業従事者についても、労働力の有効利用という立場から、能率をあげるようしくまれていく……、等々。
2. こうした管理面に即応して、職業生活における健康、安全が関連してくる。とくに工場では、災害防止や職業からくる病気の予防が欠くことのできない要件であることを、災害発生原因、疲労と休養等具体的事例を通して理解させることが大切である。
3. この取り扱いではいたずらに理論に走ることをさけ、卒業生の具体的事例や体験談、工場、会社等における現実的な問題を具体的にとりあげることが望ましいし、できるだけ工場、企業体の見学をして、能率増進のためにとられている方法や、災害防止のための施設設備などを見させるようにしたい。そうした措置がとられない場合は、工場関係の映画、スライド、掛図、写真など利用することも効果があると思われる。

下の表は、昭和27年度および昭和28年度の中学校卒業者の産業別就職先を調査したものである。これをみて、つぎの間に答えなさい。

イ. つぎの文のうち、正しいと思うものには○を、そうでないと思うものには×を、()の中に書きなさい。

() 1. 製造業に就職した人数は、昭和27年度も昭和28年度も、他のどの産業に就職した人数よりも多い。

() 2. 鉱業に就職した人数は、昭和27年度と昭和28年度と同数である。

ロ. 昭和28年度卒業者のうち、第三次産業に就職した者は全就職者の何パーセントか。ただし、「その他」を除いて計算しなさい。

答 _____ %

中学校卒業者のうち就職者の産業別就職先

区 分	計	農 業	林 業 しゆりよう 狩猟業	漁 業 しよく 水産養殖業	鉱 業	建設業	製造業
昭和27年度(%)	100	33.5	0.5	2.1	0.5	1.8	38.1
昭和28年度(%)	100	30.3	0.5	2.2	0.5	2.0	41.0
昭和28年度指数	84.1	76.2	87.6	88.1	71.2	90.3	88.9

区 分	おろし 卸 売 業 小 売 業	ゆう 金融 保険 不動産業	運輸 通信 公益事業	サービスマ サービス業	公 務	そ の 他
昭和27年度(%)	10.7	0.4	1.7	6.8	0.7	3.2
昭和28年度(%)	10.5	0.3	1.9	7.7	0.5	2.5
昭和28年度指数	82.7	67.3	94.1	95.6	65.9	67.9

(注) 指数の基準年度は昭和27年度である。

A. 中学校卒業生の産業別就職先一覧表を読みとることによって、産業分類の理解程度をみるとともに、統計数値の解釈をねらったものと思われる。

B. 問イ、では二つの関門が考えられる。一つは、パーセントがある基準となる数量と比較された数値であり、同一年度においては基準量100%に対し、各産業種別ごとに示されたパーセントをみることによって、その年度内就職者の割合が比較されること。他の一つは、年度がちがえば基準量が同一かどうかは不明であるが、表には指数の形で両年度が比較できるようになっているので、指数の意味がわかれば就職人数の比較が可能であるということであ

る。正答率 30.5%は、おそらく後者の理解が不足していたためと思われる。

問口、では、第三次産業とはいかなる産業大分類をまとめたものが理解されなければ、正解を期し難い。正答率 8.3%の低率は、この知識のあいまいさを物語っている。

C.

1. 産業分類は、一般に用いられている国勢調査の 12 大分類、38 中分類、121 小分類を引用し、そのうち主として大分類について取り扱うことになろうが、具体的な身近かな事実、たとえば自校卒業生の最近数年間における産業別就職状況や、県下中学校卒業生の資料などを手がかりとして、理解に導くことなどが考えられる。
2. もちろん産業の内容や特色など、社会科でも学習していることと思われるので、ここでの取り扱いは重点的、具体的な方向を心がけるべきであろう。

自校卒業生の就職動向にしても、産業別に（大、中分類の有機的関連が容易であるし、第一次、第二次、第三次産業といった分類のしかたもわかり易くできそうだが）、さらには、個人の従事している仕事の内容によって、職業別の分類に導くことは望ましいし、そうした具体的事実の活用によって産業と職業の関連が、身近かな問題として認識されるのであるまいか。

3. その場合、先輩の歩んでいる道が、つねに国内産業や職業の特色、動向と結びれている点を強調し、生徒の将来進むべき方向や、現在および将来の生活の計画や心構えを養うよう留意したい。
4. パーセントや指数は数学などで取り扱われてきているので、指導としては、数表の読みかた解釈のしかたに習熟させる方向が望ましい。したがって、教科書の資料などを前記資料とあわせ活用したいものである。

つぎのイ, ロ, にもっとも関係の深いものを, 下の1, から6, までのうちからそれぞれ二つずつ選んで, その番号を()の中に書きなさい。

イ. 公共職業安定所() () ロ. 労働基準法() ()

1. 作業能率をあげるため, 設備を整え, 採光や照明をよくする。
2. 特別の場合のほかは, 従業員に1日8時間, 1週48時間をこえて労働させない。
3. 短い期間に, 職業に必要な技術しやうがうを指導する。
4. 求職者のために, 職業を紹介し, あっせんする。
5. 満18歳にみたない者を使用する事業場には, その年令を証明する戸籍証明書せきをそなえつける。
6. 失業者に対して, 失業保険金はらを支払う。

A. 生徒の就職や将来の職業生活に関係の深い公共職業安定所や, 労働基準法について, その機能や法規上の重要な点を, 具体的事例をあげて理解を問うたものと思われる。

B. 問イ. については, 選択肢4は一応問題ないとしても, 選択肢6(正解)と5あるいは1と3などのとりちがいがあったのであるまいか。(3をとるとすれば, 公共職業補導所—現在では職業訓練所という—と誤った生徒も予想される)

問ロ. では, 選択肢2に問題はなく, 5(正解)と6に迷わされたのであるまいか。失業保険金を支払うという意味を, 失業保険金を支払うことを規定した制度と考え, それが労働基準法に規定されているとでも解され易い。正答率24.9%は, そうした誤が多かったことによるのであるまいか。

C. 働く人の保護を規定した労働基準法については, 社会科でも取り扱われるので, ここでは職業生活との関連の立場から, 重点的な取り扱いをすることが望ましい。すなわち, 中学校卒業後就職する者は, 満18才未満の年少労働者に属し, 婦女子とともに, その健康保持について特別の規定があること(労働基準法 第六章 女子及び年少者) など, 具体的事例を取り扱いながら, その内容にふれることがよいと思われる。

また, 公共職業安定所については, もっぱらその利用の観点から, いわゆる

る職業紹介, あっせん, 補導などの機能にふれ, 積極的な職場開拓のための公共機関であることを理解させる。また失業者に対しては, 社会保障制度の一環としての, 失業保険金の給与なども取り扱っていることにもふれていく。なお社会保険とその利用を, 就職先の条件, 就職手続き—労働契約を結ぶ—などによって有効に活用できるよう, できるだけ職業安定所をとおしておこなうことがよいことを理解させるべきである。

昭和34年度 問題 [5]

正答率 イ, 57.0% ロ, 79.3%

つぎのイ. ロ. の文の()の中にあてはまるものは何か。それぞれの文の下の□の中から選んで, その番号を()の中に書きいれなさい

イ. ()は産業分類の第2次産業の中にふくまれる。

1. 林業 2. 金融業^{ゆう} 3. 製造業 4. 漁業 5. サービス業

ロ. ()になるには, 国家試験を受けて, それに合格することが必要である。

1. タイピスト 2. アナウンサー 3. 銀行員 4. 薬剤師^{ざい} 5. デザイナー

A. 問イ. においては産業分類のまとめ方のうち, 産業大分類と, さらにそれらのうち鉱業, 製造業, 建設業などを含めてよんでいる第2次産業との関連について問うており。

問ロ. では, いろいろな職業のうち, 公共の福祉や安全に関係し, 特殊な技能を必要とする職業に関し, 国家試験を受けるものについての理解をみようとしている。

B. 問イ. は産業大分類12項目のうち製造業が, 第2次産業に含まれていることを確かめる問題であって, 正答率は57.0%とあまりよくない。問ロ. は, 国家試験をうける必要のある医師, 薬剤師, 看護婦, 栄養師, 弁護士, 保健婦などのうち, 薬剤師を問うている。正答率約80%は, 大体こんなものであるまいか。

C. 産業分類の取り扱いについては, 32年度 問題 [1] の項を参照された。なお, 産業分類と関連する職業については, おもな職業の内容とその特

色にふれ、作業に必要な性能、学力、体力、資格（免許を必要としているものを含む）、経験や訓練など概括的な理解に導く必要があるので、その際、それら職業の国民経済や国民生活における意義を理解させることが大切である。したがって、国家試験をうける職業は、その重要度から法律で規定されていることなどを強調すれば、理解に導きうるのではあるまいか。

ま と め

第6群は、主として産業ならびに職業生活についての社会的、経済的な知識・理解、を深めさせることを目標とするものであるが、ここにとりあげた問題を、昭和32年度の学習指導要領の内容にそって、便宜上、整理をしてみるとつぎのようになる。

○ 産業と職業——産業とその特色

30年度問題〔1〕……企業形態と生産性

（第3群経営—経営組織の項目内容）

32年度問題〔1〕……産業分類

34年度問題〔5〕(f)……産業分類

○ 職業と進路——学校と職業

34年度問題〔5〕(g)……資格・免許と職業

○ 職業と生活——能率と安全

31年度問題〔1〕……職業生活と能率

33年度問題〔3〕……労働法規

これらの学習は、とかく、抽象的になりやすいから、特に注意し、他の群における仕事や、実習と関連づけて指導できるものは、できるだけ関連させて学習をさせる。

また、社会科における、近代産業の発達の大要や、これをめぐる社会問題などについての学習とも、じゅうぶん関連させ、できる限り、具体的な学習となるよう、くふうをする必要がある。

1. 産業とその特色……は、「おもな産業について、基礎的な知識・理解

を得させるとともに、国民経済、国民生活との関連について理解させるという、ねらいをもっているが、できる限り、他群の学習にくみいれて学習させることが大切である。特に、社会科との関連を密接に保ち、むだな重複をさける考慮が必要である。

しかし、他群とむすびつけて学習することの困難なもので、しかも重要なもの(32・34年度産業分類)、また、本県の産業や、本県人の就職との関係深い内容のものなどは、6群としてまとめて学習するといった方法をとらざるを得ない場合もでてくるであろう。

30年度〔1〕の問題は、第2群の内容と関連づけて学習する場合もあろうが、やはり、第3群の経営組織の内容項目において、重点的に指導することが最も望ましいようである。

2. 学校と職業……学習指導要領では、「学校ならびにその他の教育施設の内容特色、およびそれらと職業との関係について理解させる」と留意すべき点を述べているが、卒業生の動向調査や、学校、その他の教育施設の見学などの実施により、具体的な事実や、資料にもとづいて、観念的な学習にならないように指導することが大切である。

ホーム・ルームにおけるガイダンスや、職業指導計画といたずらに重複しないよう留意する必要もある。

3. 能率と安全……ねらいは、「職業生活における能率・健康・安全・保険について理解させるとともに、日常生活に実践する態度を養う」ということである。

これらの内容も、なるべく、他群の仕事学習と関連して取り扱うことが大切である。しかし、33年度〔3〕労働法規に関する内容は、社会科とじゅうぶん連絡をとり、重複しないよう指導計画を立てることが必要である。

さらに、学習活動を具体化するために、つぎのようなことを考慮することが大切である。

- (1) 日常生活や、卒業生の職場における具体的事実や資料を活用する。
- (2) 映画、スライド、絵図などの視覚資料を用いる。
- (3) 職場見学(あるいは職業調査)をする。
- (4) 各産業と特色などについて、グループ別に研究調査をするといった効果

的な学習指導をくふうする。

一応、32年度学習指導要領にそって、第6群の学習指導上の留意点をあげてみたが、新しい技術・家庭科になると、こうした第6群的な社会的、経済的知識・理解の内容も、おのずから改変されてくるわけである。

それにしても、いわゆる社会的、経済的な知識・理解は重要な学習内容である。この関係知識は果して、どのように学習させたらよいか。特に仕事とどのように関連させて学習させたら、最も効果的か、といった指導の方法的な面については、なお今後の研究に残された重要な問題である。

あ と が き

第1群から第6群まで通覧して、「はしがき」で、あるいは総論としての「職業・家庭科教育と技術指導」で意図したことが、そのようにまとめられたかどうかを反省してみた。

もともとの企画は、全所員の共同研究によって、ある程度の筋がきをもって始められた労作ではあるが、学力観そのものに教科的な特性があり、根本的には、今後数年を費しても決定的な結論を得ることは困難であろうという性格をもっている。したがって、各教科ごとに、それぞれの立場で分析検討を進めながら、いろいろの場面で、また全所員の協議がくり返される、といった過程をたどってきた。その間、中・高等学校における錬達された専門教師の意見を広くきいて、誤りのないことを期するとともに、学校教育課の指導主事からも直接間接に援助をいただいた。

とくに職業・家庭科は、第1, 2, 3, 5, 6群と広範にわたって、しかもそれぞれの群が専門化されているため、栗賀、林両所員が全体的な企画運営をはかりながら、つぎの方々の討議や執筆などを煩わすことによって、完結することができた。ここに深く感謝の意を表するものである。

第1群関係

新潟県立加茂農林高等学校教諭	宇田正身
主として栽培関係—稲作—を執筆	
新潟市立坂井輪中学校教諭	新田見周三
主として—栽培—畑作—を執筆	
西蒲黒崎村立黒崎中学校教諭	藤原輝一
主として栽培(園芸)および飼育を執筆	
学校教育課指導主事	藤井正弘
指導事例を一部提供	

第2群関係

新潟県立新潟工業高等学校教諭	山口栄三
新潟市立舟栄中学校教諭	森田光雄

新潟市立宮浦中学校教諭 笹川定雄

新潟市立白新中学校教諭 丸山吉蔵

学校教育課指導主事 広瀬正幸

森田，笹川，丸山教諭が原案を提示され，林所員がとりまとめ執筆

第3群関係

新潟県立新潟商業高等学校教諭 近藤敬治郎

新潟市立東新潟中学校教諭 八木友衛

新潟市立白新中学校教諭 野瀬吉栄

学校教育課指導主事 堀江卓次

近藤，八木，野瀬教諭がそれぞれ分担執筆

第5群関係

新潟県立新潟中央高等学校教諭 金井美代

新潟市立宮浦中学校教諭 清野ミツエ

新潟大学附属新潟中学校教諭 峰木和代

学校教育課指導主事 大井ヒデ

学校教育課指導主事 田中トマ

執筆は，金井，清野，峰木教諭が分担し，金井教諭が全体をまとめた。

第6群関係

「職業・家庭科教育と技術指導」をふくめて，栗賀，林所員が執筆した。